－研究資料－

バドミントン競技におけるラリーポイント制の導入についての研究

九州歯科大学　鯨　　吉　夫

A research on the introduction of the Rally point scoring system to Badminton game

Yoshio KUJIRA

Kyushu Dental College, Fukuoka, JAPAN

キーワード：バドミントンの試合，ルールの改正，ラリーポイント制の導入，ゲームの比較

1．目　的

体育・スポーツ教育の場に，バドミントンを導入しているところは，かなりの数になるものと推測する。バドミントンは，コート中央に張られたネットを境としてプレイするため，相手プレイヤーと接触することのないスポーツである。また，生涯スポーツとして老若男女が気軽に楽しめるスポーツの一つであろう。

バドミントンは，シャトルコックという名称の羽根球を用い，相手プレイヤーとラケットで打ち合いながら得点を取り合うスポーツであることは周知の通りである。テニス，卓球，バレーボールなどと同様にネット型の球技スポーツであり，上級レベルのプレイヤーから打たれるスマッシュは，時として時速300km を越えることもある。また，ネット付近で打たれるヘアピンショットは，まるで羽毛が舞うごとく華麗な放物線を描いてフライトする。それらの魅力に取りつかれる愛好者も少なくはない。

ラリーを開始させるにあたり，テニス，卓球，バレーボール，バドミントンは，第一球目を打つサーブ権が存在する。上記の種目の中で，テニス，卓球，バレーボールは，サーブ権の有無に関わらず得点が得られるルールが定められているが，バドミントンはサーブ権が自分たちのチームにないと得点が得られないルール[6]が定められてきた。しかし，国際バドミントン連盟は，2006年２月からサーブ権の有無に関わらず得点が得られるラリーポイント制の導入[1]を始める決定を下し，この新ルールは2006年５月に日本で開催されたトマス杯（男子），ユーバー杯（女子）の国際大会より採用[5]された。また，日本バドミントン協会では，国内での新ルールの正式採用を2006年10月からに決定[5]した。

日本バレーボール協会が，試合時間の短縮を目指してラリーポイント制を導入したのは1998年からである。バドミントンも新ルールのラリーポイント制を導入する背景には，試合時間の短縮を目指す理由が考えられる。本研究は，従来のサーブ権ルールでの得点取得状況と新ルールのラリーポイント制を比較した場合，試合時間の短縮が期待できるのか。また，得点の取得状況にどのような違いがみられるのかを明らかにすることを目的として行ったものである。

本研究を実施することにより得られる知見は，体育・スポーツ教育の場や生涯スポーツとしてバドミントンを愛好する人たちのために，有効なものであると考える。

2．方　法

体育・スポーツ教育の現場や生涯スポーツとしての立場からバドミントンを考える必要がある。したがって有効に活用させることを踏まえて，初級レベルの男子学生２名・女子学生２名を対象としてシングルスの試合を行わせた。バドミントン経験年数１～２年，20～21歳である。

ラリーポイント制を採用した新ルール[7]では，１セットの得点が21点に変更された。また，サーブ権の有無

に関わらず得点が得られることはもちろんのこと，ダブルスのセカンドサーバーの表現がなくなったことも変更部分である。つまり自分がミスをすると相手に得点が入るばかりではなく，サーブ権も相手に移動してしまうルールである。サーブ権の移動に関しては，従来のシングルスの試合方法と同様であるため，21点マッチでシングルスの試合を行わせて得点用紙を作成した。従来のサーブ権ルールでの得点取得状況と新ルールのラリーポイント制での得点取得状況を比較するため，試合方法は従来のサーブ権ルールで行わせた。また，試合時間を掌握するため，得点取得時の時間を合わせて記録した。本来の試合は，３セット中２セットを先取した方が勝ちとなるが，今回の試みは男女それぞれ１セットずつの試合の得点用紙を用いて，試合時間と得点取得状況の違いを考察することにした。

３．結　果

表１は男子シングルス，表２は女子シングルスの得点取得状況を示したものである。それぞれの表の上段は従来のサーブ権ルールでの得点取得状況を示し，下段はルール変更後のラリーポイント制をあてはめて示したものである。

１）得点用紙の見方

＊表１上段は従来のサーブ権ルールで試合を行った場合の，ＡとＢの得点取得状況を示したものである。

①Ａのサーブ権で試合開始（０－０）。２点を取りサーブ権の移動（０－２）。得点用紙では縦ラインを引いて表す。

②Ｂのサーブ権で再開（０－２）。１点を取りサーブ権の移動（２－１）。

③Ａのサーブ権で再開（２－１）。４点までを取りサーブ権の移動（１－４）。

④Ｂのサーブ権で再開（１－４）。３点までを取りサーブ権の移動（４－３）。

（中略）

⑤終盤，Ａ16点から18点を取りサーブ権の移動（10－18）。

⑥Ｂのサーブ権で再開（10－18）。得点ならずサーブ権の移動（18－10）。

⑦Ａのサーブ権で再開（18－10）。21点目までを取りゲームセット（21－10）。

＊表１下段の得点用紙は，従来のサーブ権ルールでの得点取得状況に合わせて新ルールのラリーポイント制をあてはめて示したものである。

①Ａのサーブ権で試合開始（０－０）。２点を取りサーブ権の移動（１－２）。

②Ｂに１点が入り，Ｂのサーブ権で再開（１－２）。２点目を取りサーブ権の移動（３－２）。

③Ａに３点目が入り，Ａのサーブ権で再開（３－２）。５点目までを取りサーブ権の移動（３－５）。

④Ｂに３点目が入り，Ｂのサーブ権で再開（３－５）。５点目までを取りサーブ権の移動（６－５）。

（中略）

⑤終盤，Ａ20点目が入りサーブ権の移動（17－20）。

⑥Ｂに17点目が入り，Ｂのサーブ権で再開（17－20）。Ｂのミスによりサーブ権の移動（21－17）とともにＡに21点目が入りゲームセット。

＊表２の女子シングルスの得点取得状況も同様な見方である。

表１　男子シングルスの得点取得状況

従来	A	0 1 2		2 3 4		4 5		5 6		6 7		7 8 9		9 10 11		11 12		12		12 13 14		14 15 16		16 17 18		18 19 20 21	21
	B		0 1		1 2 3		3 4		4		4 5 6		6		6 7		7 8		8		8 9 10		10		10		10
変更後	A	0 1 2		3 4 5		6 7		8 9		10 11		12 13 14		15 16 17		18 19		20		21							21
	B		1 2		3 4 5		6 7		8		9 10 11		12		13 14		15 16		17								17

表２　女子シングルスの得点取得状況

従来	C	0 1		1 2 3		3 4		4 5 6 7		7 8 9		9 10 11 12		12 13 14 15		15 16 17 18 19		19 20		20 21	21
	D		0 1 2 3		3		3 4		4		4 5 6 7		7 8 9 10 11		11 12 13		13 14 15		15 16 17		17
変更後	C	0 1		2 3 4		5 6		7 8 9 10		11 12 13		14 15 16 17		18 19 20 21							21
	D		1 2 3 4		5		6 7		8		9 10 11 12		13 14 15 16 17								17

２）図の説明

図１は従来のサーブ権ルールでの得点取得状況を太線で示し，図２はルール変更後のラリーポイント制をあてはめた場合の得点取得状況を太線で示したものである。いずれも表１の男子シングルスの得点取得状況を図示する方法[4]で示したものであり，横にＡの得点，縦にＢの得点を表した。同様にして，図３と図４は表２の女子シングルスの得点取得状況を図示したものである。

４．考　察

表１上段の従来のサーブ権ルールで試合を行った場合の得点用紙をみると，21－10でＡの勝ちであり，試合の開始から終了までの時間は12分58秒であった。また，図１でも明らかのようにＡ14点目から21点目にかけて，終盤はＡのペースで試合が進行していることがわかる。表１下段の得点用紙は，従来のルールでの得点取得状況に合わせて，新ルールのラリーポイント制をあてはめて示したものであるが，サーブ権の移動時に得点が加算されるため，得点取得の進行が早いことがわかる。Ａが21点目を得て試合が終了した時間は，表１上段のＢ８点目のサーブ権でラリーがスタートしてＢがミスをしたときであり，時間は試合開始後10分08秒であった。従来のルールと新ルールを比較した場合，この試合では時間が２分50秒短縮されたことになる。図２の新ルールでの得点取得状況では，２－２，５－５，７－７，11－11で同点になる場面がみられた。これは図１ではみられない状況であり，新ルールは鈴木の指摘[8]のように，今まで以上にラリーに集中していないと逆転されてしまうことも十分に予想されると考える。

表２上段の従来のサーブ権ルールで試合を行った場

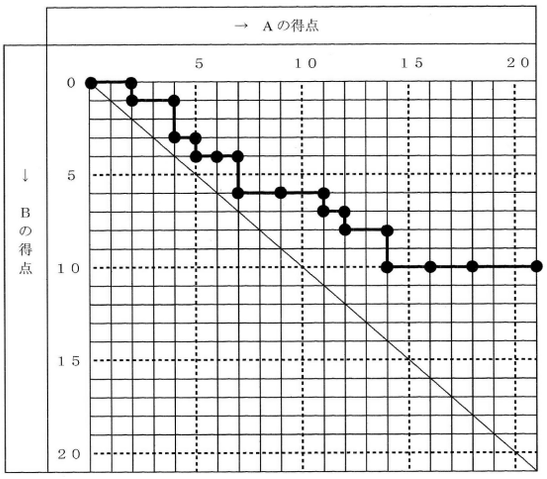

図１　従来のルールでの得点取得状況（男子シングルス）

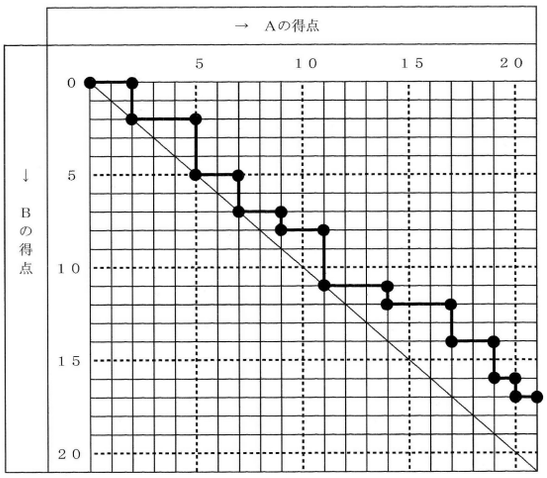

図２　新ルールでの得点取得状況（男子シングルス）

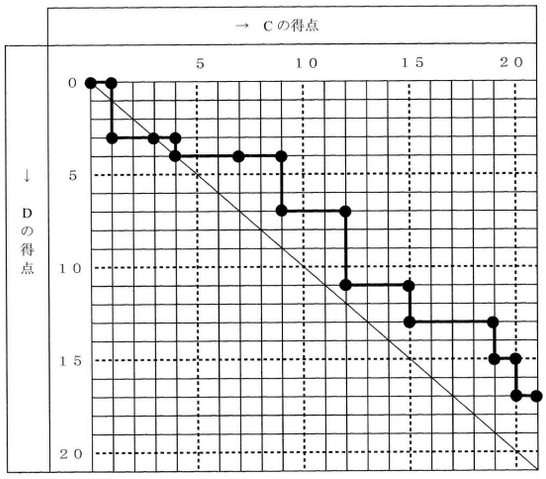

図３　従来のルールでの得点取得状況（女子シングルス）

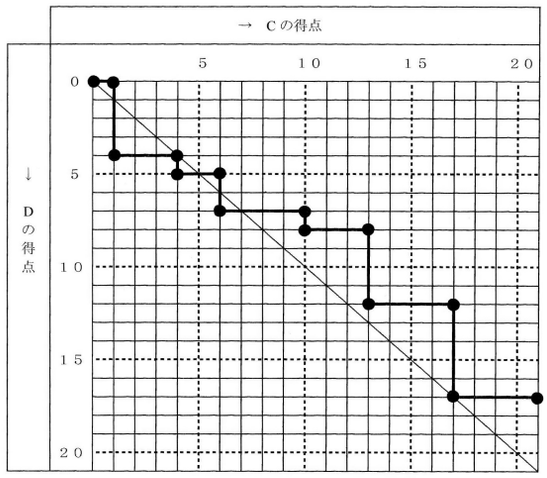

図４　新ルールでの得点取得状況（女子シングルス）

合の得点用紙をみると，21－17でＣの勝ちであり，試合の開始から終了までの時間は10分31秒であった。図３でも明らかのように，序盤３点目までのＤのリードを除き，その後Ｃのリードで試合が進行している。表２下段の新ルールにおいても男子シングルス同様，得点取得の進行が早いことがわかる。また，Ｃが21点目を得て試合が終了した時間は，表２上段のＣ15点目を得たときであり，時間は試合開始後６分41秒であった。従来のルールと新ルールを比較した場合，時間が３分50秒短縮されたことになる。図４の新ルールでの得点取得状況では，Ｄの４点，５点，７点でリードする場面がみられ，終盤の17－17では同点になる場面もみられた。男子シングルス同様，集中してプレイすることが大切であると考える。

５．まとめ

今回は，体育・スポーツ教育の場や生涯スポーツとしてバドミントンを愛好する人たちのために，新ルールのラリーポイント制の導入についての研究を行った結果，以下のような知見を得た。

男女の初級レベルの学生を対象にしてシングルスの試合をさせた結果，従来のサーブ権ルールに比べて，新ルールのラリーポイント制は得点の取得状況が早く，試合時間の短縮が認められた。これは飯野の報告[3]と一致しており，バドミントンの新ルールは試合時間の短縮が十分に期待できることが示唆された。

また，得点の取得状況を図示した結果からも明らかのように，自分のミスが即相手の得点になるルールのため，逆転する可能性も十分に考えられた。後藤の報告[2]のように，今まで以上にラリーに集中して試合を展開することが必要である。

以上の知見を踏まえながら，新ルールのラリーポイント制を理解し，教育や指導の場で有効に活用していきたいと考える。

６．参考・引用文献

1）ベースボールマガジン社：どうなるラリーポイント制，バドミントンマガジン２，35-37，2006

2）後藤浩史：25点ラリーポイント制で勝つにはどうしたらよいか，第２回バレーボール研究集会，1999

3）飯野佳孝：新システムと日本の課題，ベースボールマガジン社・バドミントンマガジン７，39-40，2006

4）鯨　吉夫：バドミントン競技におけるスコアー記入の新手法について，九州歯科大学進学課程研究紀要 24，17-25，1993

5）中島　慶：勝つためのキーワード，ベースボールマガジン社・バドミントンマガジン７，35-38，2006

6）日本バドミントン協会：競技規則規程集，2005

7）日本バドミントン協会：競技審判部報告，2006

8）鈴木快美：WE ARE HAPPY？，ベースボールマガジン社・バドミントンマガジン９，81，2006

（平成18年６月17日受付
平成18年11月24日受理）